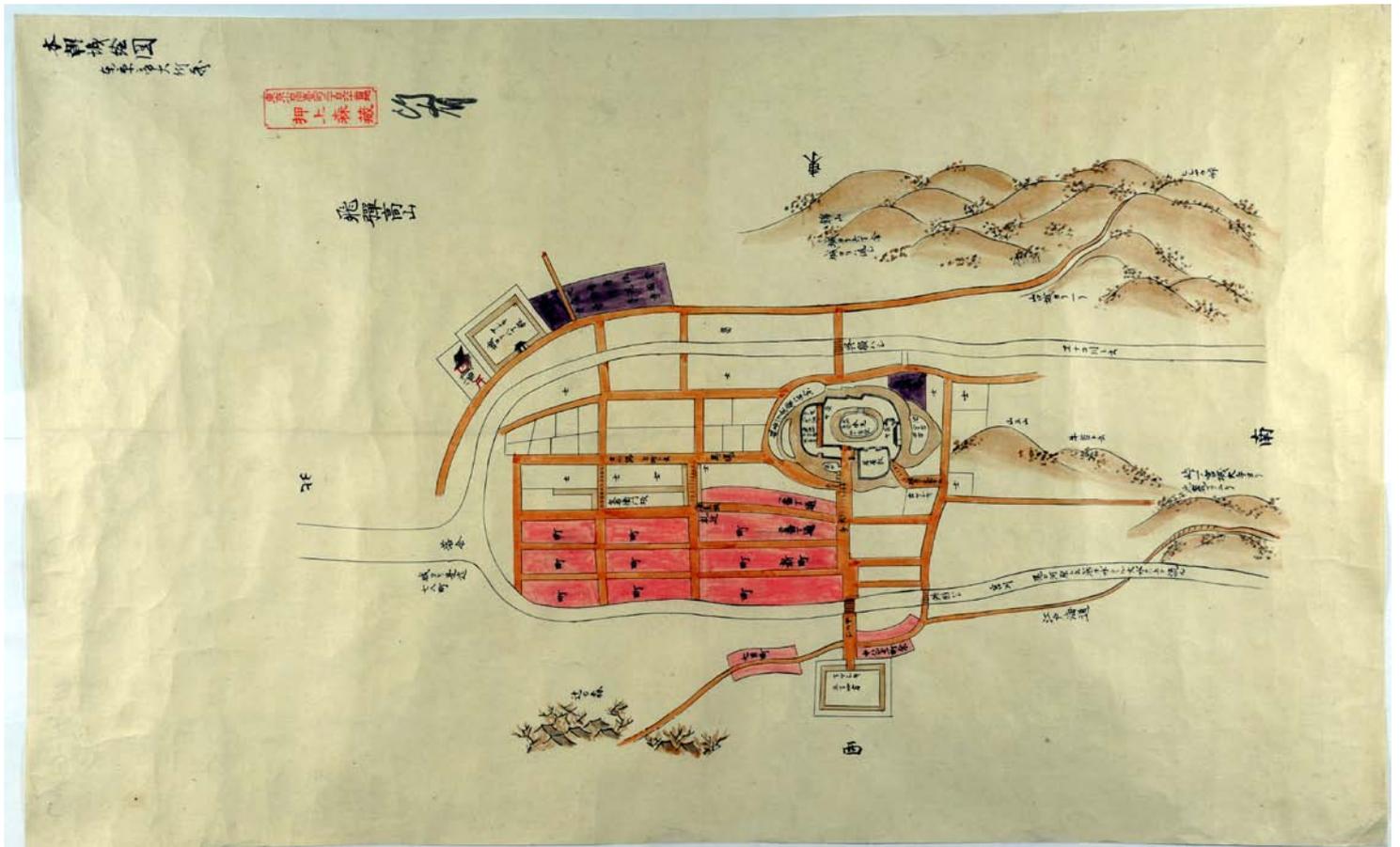




(第2図)



(第3図)

### (3) 飛騨高山絵図（第2、3図）

年代 金森時代中期

寸法 第2図 28.0×40.1

第3図 65.8×34.3

所蔵 第2図 東等寺「冬任文庫」

第3図 高山市教育委員会

第2図は東等寺「冬任文庫」に所蔵される『扶桑度量』（五畿・七道、御国別城郭絵図）に所載される高山城絵図である。本丸の後方には「天王山」と記され、右上には「飛騨国高山」、左下には「本丸高サ二ノ丸ヨリ二十五間高シ、二ノ丸高サ三ノ丸ヨリ七八（七～八？）間高シ」と記される。武家屋敷、町人地の区別は判別できない。また、江名子川のみ描かれ、宮川は描かれていない。

同類の高山城郭図が、愛知県西尾市の「岩瀬文庫」に所蔵され、『『高山城総合学術調査報告書』（財）金森公顕彰会、昭和63年』に内藤昌教授が紹介をしている。

第3図は高山城と城下町全体をざっくりと描いた古い絵図である。後に川西へ移った「馬場」が空町の馬場通りに見られ、城下町絵図の中で空町の馬場が記される唯一のものである。また一番町・二番町に続く三番町が「新町」と表記されており、三町内においても一之町側から町が西へと発展したことがわかる。また下屋敷や左京屋敷がみられることから、3代重頼以降の年代であることがわかる。この図では武家屋敷、町人地が宮川・江名子川を外郭とした内側に納まり、武家・町人地がはっきり区分されている。宮川西の下屋敷（現高山陣屋）が3丁（註4）四方で囲まれ、屋敷の前を通過して「七日町」「辻ヶ森」へと道路が描かれているが、これは郡上と白川方面へと通ずる道（山田街道）である。また、下屋敷から「中ハシ」までは一町余と記されていて、図上右に進むと「舁形ハシ」方面と「江戸海道」方面へと分かれる。現在の川原町である。江戸海道は「峠一之宮」を越えるルートとなっており、この当時の江戸街道は現在の宮峠越えであったことが推察される。一方、「山口」への道は城より1里とあり「ヒシヤウ峠」と記される。北方面の越中街道、平湯方面への道形は記されるが表記はない。

江名子川右岸に左京屋敷が描かれているが、正確な位置になっていない。

この図は右上に「本朝城絵図」とあり、東京帝大にあったものの写本であるが、同様の図が広島市立中央図書館の浅野文庫内『諸国当城之図』中にある。ここには154の江戸前期の諸大名の城郭図が五畿七道別に収納されているが、いわゆる諸国の城郭絵図集である。

こういった諸国の城郭図をあつめたものに『主図合結記』もあるが、これは近世城郭の縄張図で、城取りの参考となる兵法書である。これには144図が載るが、この中の飛騨国高山図は第2図と同じである。地形的には粗略だが、高山の町割を幾何学的にとらえている。城下町の地図は戦略的に詳細なるものを公表しがたいところがあり、金森氏としては概略図にとどめたいところであったと思われる。また正保元年（1644）には幕府が全国の諸大名から国絵図（註5）と共に城絵図を調進させている。

（註4） 「1丁」は「1町」で、109.09メートル

（註5） 正保年間の「飛騨国絵図」が東京の国立公文書館に所蔵されており、これがその際の絵図と思われる。平成22年、市史編纂室調査。